

第1回桐生市総合戦略推進委員会ワーキンググループ 議事録

○日 時 令和3年11月10日（水）午後1時30分～午後3時30分

○場 所 桐生市役所本庁舎 2階 正庁

○出席者 15名

【委員】	社会福祉法人桐生市社会福祉協議会 常務理事	八町 敏明
	一般社団法人きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長	近藤 圭子
	公益社団法人桐生青年会議所 副理事長	深澤 佑太
	桐生市総合計画審議会 副会長職経験者	新居 理恵
	移住者	和崎 拓人
	移住者	川堀 奈知
	移住者	山本 祐司
	地域おこし協力隊	小林 由香
	公募市民	山口 典利
	公募市民	清水 哲
	<欠席者>	
	NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実

【桐生市】	市 長	荒木 恵司
<事務局>	桐生市共創企画部長	新井 利幸
	桐生市共創企画部企画課長	西條 敦史
	桐生市共創企画部企画課企画戦略担当係長	金子 貴征
	桐生市共創企画部企画課企画戦略担当	伊藤 美和子

○報道関係	桐生タイムス	1名
	上毛新聞	1名

○傍聴者 1名

○会議内容

1 開 会 [開始：午後1時30分]

- ・事務局から、過半数の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 挨 拶

- ・荒木市長から挨拶（終了後、退席）。

3 委員の委嘱

- ・各委員へ委嘱状を机上にて交付。

4 自己紹介

- ・委員及び事務局の自己紹介。

5 委員長及び副委員長の選出

- ・「桐生市総合戦略推進委員会設置要綱」について、事務局から資料1に基づき説明。
- ・委員の互選により、委員長に新居委員を選出。副委員長は委員長の指名により、八町委員を選出。
- ・会議の公開/非公開及び議事録の公開/非公開について委員に諮り、会議及び発言者名を伏せた議事録ともに公開することに決定。

6 報 告

- (1) 桐生市における人口減少について
- (2) 桐生市の財政状況について
- (3) 桐生市総合戦略推進委員会ワーキンググループの設置について
 - ・資料2～6に基づき、事務局から一括で説明。
 - ・質疑応答はなし。

7 協議

- (1) 人口減少対策のあり方について
 - ・若年層、特に女性の市外流出が著しいという桐生市の現状を踏まえた人口減少対策のあり方について、委員からの意見は以下のとおり。

委員	桐生市の人口減少対策については、喫緊の最重要課題ということで、様々な事業に取り組んでいるということは認識している。その中で、議論のテーマである女性の市外流出と出生率の低下ということへの意見であるので、問題の解決になるかどうかは分からないが、思っていることをいくつか述べさせていただく。 まず、今まで人口減少対策の事業を様々やってきているが、その中の1つに、きりゅう暮らし応援事業（住宅取得応援助成）という事業がある。その中に、若い世代の夫婦の市外流出防止の観点から、現在は49歳以下の夫婦には加算があるが、結婚を機にすぐに家を建てた若い世代の夫婦に、もう1段階層を厚くして加算を増やしたらいかにかという意見である。 あわせて、税制面で、新しく家を建てると、新築の場合、3年間固定資産税が2分の1になる。例えばだが、20代・30代のまだ子どもが生まれていない新婚の夫婦、新婚じゃない場合もあると思うが、そういう夫婦に、2年とか3年独自に追加で2分の1ないし3分の1軽減するとか、税制面の優遇措置をとってあげて、いずれ夫婦で子どもも生まれるであろうから、出生数を期待するというようなことを意見として申し上げたい。 それと、住宅取得応援助成とは関係ないが、桐生市でも人口が著しく減少している地域と、何とか堪えていてそうでもない、年度別で見ると若干増えているような地域が区単位でも町会単位でもあると思う。人口統計を見れば出てくると思うが、人口がまだ増えていく期待が持てるような地域に今まで以上の積極的な住環境の
----	---

	整備といった投資をしたらいかがかなと思う。 住宅取得応援助成の中で、桐生市コンパクトシティ計画に基づいて、居住誘導地域や新里町、黒保根町については、生活拠点区域に加算措置がある。そういった区域に限らず人口がもっと小さい単位でもいいが、住環境の整備を重点的にやったらどうかという意見である。 いずれにしても財源が伴うので、先ほどの桐生市の財政状況等を踏まえると色々考えなくてはならないこともあると思うが、今までの事業の成果・効果を見極めながら推進していただければよいのかなと思う。
委員	私も希望的なことになると思うが、まずはこの若い人・移住者が入ったワーキンググループはとても素晴らしいことだと思う。各委員会の中に若い年代の人をどんどん入れていけるといい。そして、何となく堅苦しいような感じではなく、先ほど委員長もおっしゃっていたが、膝を付けて円卓を囲んでできるような、意見の出やすいような会になれば、若い人は私達の年代が考えるよりも感覚がだいぶ違うので、そういう人の意見をどんどん聞いて、何を生かしていけばいいのかなというのを、まずは意見収集できればいいなと思っている。 あとは、先ほど市長の方からもあったが、空き店舗や空き家の補助について成果があったとのことなので、今までの取組の中で成果のあったものはもう少し力を入れてもいいのかなと思っている。 それから、子育てしながら仕事を、女性は特に皆さんやっているの、両立できる環境というのが、それがどういうことかというのを具体的に考えなくてはいけないと思うが、子どもを産んでも仕事を続けられる、実際には大きい企業でないと難しいというのがあるが、そこのところ何とかできるような、桐生らしい何かがあるといいのかなというのも思っている。 あとは、最初に考えていたことと、この中で聞いた話とはまた変わってきてはいるが、今日移住者として来ている人たちが良い意見を言ってくれると思うが、商店街の空き店舗を使って、最初のチャレンジ的なもので、チャレンジショップではないが、そのような形で起業ができるような所があるといいのかなと。就職よりもたぶん起業で桐生に来る人の方が多いのではないかなと思うので、そこを少し手厚く、また今日移住者の方に意見をもらえれば、どんなことを桐生に来た時にやってもらったかというのを聞ければいいと思っている。
委員	今回、特に若者の人口流出ということで、また女性の関係で出生率の低下ということで、大変心苦しいが私は独身であり、今回の問題の一因になっているのではと心が痛むところであるが、桐生市自体にそもそも魅力がない訳ではないというのが前提だと思っている。 私も川内町の山奥で古民家を使ったゲストハウスというか、メンバー限定のクラブハウスをコンサルティングしているが、1つ1つの魅力っていうものでは、他地域から訪れる人を増やすきっかけになるというのは間違いない。しかしそこから先でどう定住してもらおうかとか、その先一步踏み込んでもらえるかということが問題で、ここが近隣の市町村との違いだと思う。 当然、若い人が集まる地域だったら、若い人が求めるものにアクセスしやすい。

	公園とか、具体的にそういうのを出しても仕方ないが、例えば店舗1つをとっても、子ども向けのメニューが豊富なお店があるよだとか、子ども服を買うのはここに行きやすいよねとか、そういうところについても市の顔というかイメージというのがあると思う。 もう1つ、人口減少のところで、対策を桐生市は結構早くから、平成26年からとっているということだが、資料2の2ページを見ると、平成26年、2014年から見ると、人口減少は、急にいく年もあるが、緩やかに解消・改善しているのではないかと、桐生市の今までしていた政策というか、平成26年度以降に与えられた政策については、概ね良好に働いているのではないかと改めてみるができる。 あとは、各委員の皆様や市長からもあったが、ターゲットに合った政策というか対策を一層進めていくべきだと改めて思った。
委員	市長の挨拶の中にもあったが、最近桐生がメディアに取り上げてもらっていたりして、他地域の人達、県外・市外の人達の目に触れる機会がこれから増えると思う。そういう番組とかSNSとかの情報を見て、桐生に興味を持って下さった方に対してのアプローチというか、まずその人が何をするかといったら、桐生を検索すると思う。そこで、桐生市ってどんなところだろうって思うと、市のホームページとかを見ると思う。そういった時に、そういう人達が情報を取りやすいスタイルになっているかという、そこはすごくもったいないなと思うところがある。 何かの情報番組で、北海道の士幌町がすごく若い世代が入ってきて、高齢化もすごく進んでいるが、子どもの人口もちゃんと増加しているというのを耳にして、調べてみたが、そこは移住サポートというのが行政のホームページとは別にあって、移住者に向けて必要な情報、そこに行けば子育てのことだったり、住環境のことだったり、色々なところのイメージが全部できる、それが一覧となって、暮らしの情報という形で、子育て、医療、福祉、住環境と全部スクロールで見られるようなページがあって、それだとすごくつかみがいいなと感じた。桐生市はどうかと思って見てみたが、暮らしの情報というのはあるが、実際、例えば児童手当のことを調べたいという目的があれば、検索していけば、それでも大分クリックしていかないとたどり着けない、どこまでたどっていくのだろうと思うくらいだが、漠然と、桐生市で暮らすとしたらどんな感じなのだろうというイメージは、申し訳ないが桐生市のホームページからはつかみづらい。予算が限られている中なので、まずは興味をもってくれた人、桐生市って移住先としてどうなのだろうと少しでも考えてくれた人に対してのきちんとした見せ方、情報発信はすごく大事なと思う。 桐生市は、子育てなどすごく良いことをやっている。教育のこともすごく頑張っているし、民間とも連携して本当に良いことをやっていると思うが、なかなかやっぱり。もっと上手くアピールして、興味を持ってもらって、桐生で暮らすとこういうイメージというのを持ってもらえるようなサイト作りをしてもらえたらいいと思う。
委員	私はたぶんこの中で唯一桐生市の出身ではない。桐生に2年半前くらいに来て、この桐生は素敵だなと思った反面、このまちはなかなか深堀りをしないと伝えづらいなと思っているので、色々な人が来てもらいやすい場所としてお店をやっている

	る。SNS 等に引っかかって桐生に興味を持ち、桐生に移住したいと最近週 1、2 くらいで若い人がやって来るので、客観的な桐生に対するイメージや良いところ悪いところを伝えることを、お金になるわけではないけど仕事とは別にやっている。 今回、資料でざっくりと桐生市は今どんな状況なのかと数字的な面を見させていただいて、2060 年に人口が半分になること自体が目標ということなので、どうやってこの市を奇麗に畳んでいくことが大事なのかと思っていて、市の設備だったり公民館だったりっていうものを、人口が半分になってきて、必要じゃなくなってきた、スカスカになってきた時に、先を見越して、例えば、どこかの企業を誘致するとか、稼げる設備にして、人を呼べるものにしておいて、どんどん縮小していくというのを上手くしていくことが大事かなと。それをせずに残したままにしておくと、費用がかさむスカスカに見えてくるのかなと。聞いた感じで言っているので暴論かもしれないが、日本全体で人口が減少していくのは分かっているのだから、そこをどう閉じていくか、どうコンパクトにして魅力的に見せていくかというのがこれからの施策として有効なのかなと思う。 例えば、極論だが、早めに学校を閉じて合併しておいて、1 クラスの学校じゃなくて 2 クラスあって、クラスメイトがたくさんいるようにして、群馬は車社会なので、送り迎えは調整して、遠いけど同級生はたくさんいるという状況を作っておけるのも若い世代にはひょっとしたら良いのかもと思う。 あと、桐生はイベントが多いと思うが、月 1 回とか特定の日を設けて、ちゃんとそこに集中してイベントを打つようにする。魅力を感じた人が検索した時に、来やすい日というのをちゃんと作っておかないと、散発しているのでどの日に行っているのか分からないということもあると思う。 先日呼ばれて行った山梨県富士吉田市のハタオリマチフェスティバルは、ちょうど桐生市の半分くらいの人口で 1 万人呼べるイベントである。そういう目標を年一で決めているからそういうことができていると思うので、まとまって特定の日に関心することを打ち出すことによって、興味を持った人が来やすいタイミングや目的を持ちやすいと思う。 また、女性の減少が目立っているということだが、女性と区切ってしまうこと自体が今の時代とマッチしてないのかなと思っていて、それこそ同性のカップルであったり、どんな方でも桐生に興味を持って移住したいと思ってもらえる施策というのを考えることが大事じゃないのかなと思っている。 若い世代が増えて今の桐生に魅力を感じてずっと居続けるかというの難しいと思っていて、一旦東京なり他の地域に出たけどやっぱり桐生がよかったなと思ってもらって、20 代後半とか 30 代になって魅力に気付いて戻ってくる。その時に旦那さんを捕まえて戻ってくるかもしれないし。現在の若い子に対して、魅力があって誇らしいと思ってもらえる状態をどうやって作っていけるかということに施策を打つのがいいのかなと思いつつ、桐生自体にその魅力はあるので、それをどうやって噛み砕いた情報としてアプローチしていくかが必要だと思うので、そこを個人としては推していけたらいいかなと思っている。
委員	桐生で就職するということと自分で何か事業を始めるという 2 つの点について自分の経験を踏まえてお話させていただきたい。

私自身も高校までは県内で過ごしていて、大学進学とともに東京に出て、3年前、15年振りに戻ってきたUターン組という形だが、自分が東京へ出ようと思った理由は、就職先がないというのが大きな理由で、数字上では、女性の市外流出が多いというところにフォーカスされているので、自分も女性という立場からお話しさせていただきたい。

私は、頭から女性の就職先が桐生にないというのがあったので、大学を選ぶところから都内の大学に進学しようとなったが、例えば、具体的な提案というか、桐生市が少ない予算の中で何ができるかという、学生時代の就職活動は、合同企業説明会といって、ビッグサイトなり大きな会場を借りて、そこに様々な企業が集まって一気に会社の情報が得られるという定番の形があるが、桐生市内の企業の中で女性の雇用に力を入れたいという、男女格差という話をしてしまうと大きくなってしまいが、女性ならではの細やかな取組とか、対お客さんとのお仕事であれば女性の方が話聞きやすいというところがあったりするので、女性を積極的に雇用したいという企業があれば、桐生市の方から声掛けして、女性達に向けた合同企業説明会を企画するというのは、そんなに費用がかからないと思う。

一方で、私がUターンで帰ってきて、桐生で何か自分で事業を始めたいということで、私は市内でゲストハウスをやっていて、空き家バンクで物件を探して、今活動しているところであるが、桐生は他の市町村と比べても空き家がたくさんあって、その立地だったり条件だったり活用できるかが難しいところで、どれだけ修理が必要なのかとか、中の残置物がそのままになってしまっているのもその処分をどうするのかとか、色々な要素があってなかなか活用に踏み切れないという物件がたくさんあると思うので、その辺を桐生市として何か、空き店舗・空き家を持っているオーナーさんへの声掛けというか、例えば商店街の物件の固定資産税を少し値下げして、その分そこへお店を持ちたい人に入ってもらって、オーナーさんは回収して、それでまた桐生が潤えばいいのかなと思う。

先ほど委員からのお話があったが、いざ会社員だった人間が事業を起こそうと思った時に、結構ハードルが高いというか、家賃の問題もそうだが、色々な要素があって踏み切れないというところがあり、そういうことが自分の経験上あったので、桐生市民活動推進ネットワークのサポートの下、桐生駅構内にチャレンジ型のコミュニティスペース「オーライ」というものを作ったが、そこは、これから事業を始めたい人が低リスクで、お試して色々なことにチャレンジできる場所として作りたいところだったので、今とてもいい感じで稼働している。例えば、それがこういう市民団体ではなくて、桐生市として、そんなに予算をかけて作ったコミュニティスペースではないので、小さく始めて、桐生市としてサポートすることもできるよということを発信できたりすると、よそへ行った人が戻ってきてくれるのではないかなと思う。

あと、今市内でお店をやっている中で、若年層の方と話す機会が結構あって、私達の時と違って、今の若い子たちは、桐生がつまらないということではなく、桐生はすごく良い所でお店も増えてきて居心地が良いけれど、将来のことを考えるとやっぱり外に出ることを考えてしまうということを知ることが多いので、せっかく若い人達から桐生は良い所だと思われてきていることを考えると、できるだけ桐生市という単位で色々な魅力を発信したり、サポートする体制を作ったりしていけたら

	いいのではないかと思った。
委員	ざっくばらんな会議だと聞いたが、マスクもしてパーテンションがあつてすごく距離を感じて、せっかく参加いただいた皆さんも自分の考えをもっと持っていられちゃうと思うので、本当にざっくばらんにできたらいいなと思う。 私も桐生市出身ではあるので、移住者の前に子ども時代を過ごしたまちとして言うと、皆さんもそう思っているような気がするが、無理に桐生市に留めようとしてしまう方が、桐生市を弱くしてしまうのではないかと思うので、敢えてというか、一旦外に出てみてもらうとか、修行に出ていただくことが大事かなと思う。その時に大事なのは、いかに中で過ごした時に、抽象的な話になってしまうが、このまちを面白い大人に出会えたかだと思っていて、地元の方でもいいし、移住で来られた方とか、身近に触れられる面白い大人みたいな人が、子どもの時に、訳が分からなくてもそういう人と一緒に過ごしたり、何か活動したりする機会がいかに作れるかが大事だと思う。 また、桐生は織物のまちなので、やたら学校で織物に触れさせるみたいな機会が多い。それ自体が悪いと思っているわけではないが、それよりももっと、その場所で機織りの音を聞いて、アカデミックに学ぶよりは、身体で感じられる機会、そこでみんなで遊んだりする機会が増えた方が良い。 私もどちらかというと桐生が嫌で高校から前橋に行って桐生を離れていった人間だが、いざ離れてみた時に、高校生の時に有鄰館の演劇祭にたまたま参加して、そこで初めて桐生を面白がっている人達と演劇を通して、このまちがすごく面白いとわが事で語っている大人を見てすごく面白いなと思って、その方に早稲田に行ったら演劇ができるよと言われたので、すごく純粋な少年だったので、そのまま受験して行った。そうすると、ずっと心に残り続ける。場所であつたりシーンとか人がすごく残っているので、何かと気にかけて少し帰省した時に寄ってみたり、イベントがあつたら調べてみるなど、うすぼんやりとある中で、気に掛ける存在としてあつて、タイミングが合った時に、私の場合はコロナをきっかけに、旧桐生市ではなく黒保根に移住するという形を選んだ。 次に移住者の視点で話すと、私は子どもが生まれた時に、うすぼんやりと、小学校に上がるくらいのタイミングで、桐生に戻って就職というよりは、自分で何か事業を起こしていくことを想定していた。このコロナはすごく面白いと言ったら語弊があるが、先ほど冒頭の挨拶で申し上げた、フルリモートワークで、黒保根の山奥でインターネットさえあれば、東京で自分達で興した会社だが、そこで何不自由もなく仕事ができるしまうというところが、まず環境の変化というところで大きいのと、子育てするに当たって、自然に身近に触れられるところで育てたいという思いが夫婦であつたので、妻の地元は群馬と全然関係ないところだが、移住をした。 そこで、人口減少対策につながる部分だと思うが、黒保根の立場から考えると、やはり教育がすごく大事だと思っていて、子育て世代が移住していく中で、エリートを養成する、すごくハイスペックな学校を求めているわけではなく、先ほど委員の話にもあつたが、人口が減っていく中で、質の高さとか、例えば、子ども達がやりたいことを、個性を伸ばせる環境は、マンモス学校ではなかなか難しい。私も東京で1クラス30人の保育園から、全学年で10人くらいの黒保根保育園に移った中

	で、何が違うのかということ、お兄さんお姉さんとずっといるので、子どもは1人だが、すごく下の子の面倒を見たがったり、すごくのびのびと、自分達で食物を育てて調理して食べるということが当たり前のようにできたりしてすごく贅沢だなと思う。 そのような中で、黒保根学園はチャンスだなと思っており、これは黒保根に限った話ではなくて、黒保根でこういった小中一貫校で子ども達が個性を伸ばせるモデルが1つできると、例えば私が育った東小も、私の時は4クラスあったのが1クラスしかなくなっていてすごくショックだったが、例えば、そこなら目の前にPurveyorがあるので、ものづくりとかクラフトとか、私の時は鉄工所跡で何もなかったが、目の前にそういう触れられる環境があるというのを特色にした学校にしてもいいのかなと。そうすると桐生が、少しずつ人が減っていく中で、逆に3周くらい回って特徴的な学校運営ができる。そこに私はあまり予算はいらないのではないかと考えていて、どちらかというとソフトの面で、黒保根であれば、地元の人達、移住者であれば、今定住促進住宅という6軒のところに住んでいて、子ども達も何人もいて、皆すごくここに関心を持っている中で、そこを巻き込むか、最近黒保根グランピングということでタイムスに載って話題になっていたが、例えば桐生出身とか、桐生にゆかりのある企業や法人など広くステークホルダーを巻き込んだ学校運営があっていいのではないかなと思う。そこに移住者の我々ももちろん協力するし、投資というよりはソフトの部分を一緒に創るというのがいいのではないかなというのと、逆に投資が必要だとすると、皆さんの意見にもあったと思うが、住宅みたいなところが、どうしても黒保根は、空き家を探して交渉するという難易度があつて、鶏が先か卵が先かになってしまうが、ここがあるので、ここに来てでもそういう学校に通わせたい、この機会にそういう学校に入れたいという人は必ずいると思うので、その鶏卵が速く回せるような部分に投資を敢えてすることがいいのかなと思った。
委員	資料をいただいてまず思ったのが、資料の量が半端じゃないなと思って、会議の前にこれだけ渡されて、読んでお越しく下さいと言われた時のプレッシャーがすごくあって、すごくお堅い会議なのだなと思った。当初お声掛けいただいた話だと、本当にざっくばらんに意見を聴きたいという会なので、気軽な気持ちで参加してほしいということであったが、もっと意見を言いやすいような雰囲気のできるのかなと思った。 人口減少について説明をいただいて、私も高校卒業後桐生を出て行ってしまった人間なので、参考になるようなことはわからないが、私がなぜ桐生を出たかというと、委員と同じで、就職先の問題である。私はシングルの家庭で育ったが、女性でもきちんと大学を出て、きちんと正社員として働いて、1人で自立して働けるようにならなければならないと育てられてきた。 そうなった時に、桐生市で女性が1人で働いて家計を支えて、私は結婚もしていないし子どももいないが、例えばシングルで働くとなった時に、もちろん就職先の問題もあるし、育児と仕事の両立、子どもの保育園どうしよう、そのうち親の介護もあるからどうしようと、私はすごく複合的な問題をはらんでいるなと思って、私が母1人子1人なので余計そう思うのかもしれないが、今回私が戻ってきたのは、

	半分は将来の母の介護を見据えてのことである。もちろん子育てと仕事の両立も大切であるが、私のような一度出た人間が地元に戻って来るときは、親の介護の問題は必ずくっついてくると思う。まだ母は元気であるが、今後来る介護のことについてはすごく不安であるし、金銭的なこともだし、どういう補助があるのかも桐生市に関してはほとんど分かっていない。その辺りがもう少しクリアになると、30代・40代になってからも戻って来やすいのかなと思う。例えば、私は女性だがこれが男性だった場合、仕事を辞めて戻ってくるという可能性もあると思う。そっちの方が、桐生で就職をして、親の介護もしながら、奥さんと子どもがいてやっていくというのはちょっと難しいと思う。実際やられている方はたくさんいらっしゃると思うが、私の中ではまだ現実的に想像ができない部分が多くてすごく不安がある。 財源の確保というところに関しては、私は今桐生市観光物産協会で働いている中で、桐生市の観光に対する取組を拝見したり参加したりしているが、今回の地域おこし協力隊も、桐生の観光振興や観光情報の発信というミッションの下に採用されたので、私はもっと桐生市が観光に力を入れているものだと思っていた。私が住んでいた頃よりは、もちろん観光に対する取組とか増えていると思うが、思っていたほどではないなというのが正直なところで、先ほど委員も言っていたが、市民の方が中心になって色々なところで自主的にイベントを起こしているが、何となくまだバラバラとしていてハブになるところがない。そのハブになる部分をなぜ桐生市が担えないのかと思っていた。それは今も思っているが、観光資源を活用して観光でお金を動かしていくということができれば、私が子どもの頃には全くしてきていなかったことだと思うので、もっともっと観光面で生み出せるものがあると思う。本当にすごく色々考えて動いている人達がたくさんいるので、その人たちの意見をきちんと取り入れて、動くことができれば、桐生市全体としての観光の発展につながると思う。 今すごく大学生からの問い合わせが多くて、卒業研究で桐生市の観光や産業の観点から卒業論文を発表したいのでインタビューをしたいとか、まちづくり観光コンテストに出すテーマの場所として桐生市を選んだので色々教えてくださいとか、若い大学生達が興味を持ってくれているのだなということを肌で感じている。彼らは東京に住んでいる若い子達だが、桐生に興味を持って選んでくれたというところに、桐生の潜在能力は高いのではないかと思っている。
委員	今回公募という形で参加させていただく。桐生に戻ってきてから仕事柄あまり桐生から出られないで色々な活動をしてきて、色々な世代の方々と付き合ってきたわけであるが、今回、そういったことに本格的に関わってみようということで参加した。 資料を見ると、桐生市はかなり色々なことを予算付けて細かい部分もやっているなと思った。しかし、そのことが全然一般に知られていない。私の仕事に関わる事業としては、例えば、産後ケア事業とか、すごく良くやっていて、全国の中でも良くやっている方だと思う。だけど、全く利用者がいない。お知らせしてはいるであろうが、なぜかそれを受ける人がいない。制度的にはすごく良くできているが、これはこの事業に限らず、これまで長い年月をかけて色々なことを色々な人たちがやってきたが、いまいち中途半端で終わってしまって上手くいっていないと思う。ど

うやったら皆を巻き込んでいくか、巻き込み方がすごく重要なのかなと思う。色々な角度で色々な人達が色々なところでやって、面白がってもらうことが一番重要なので、面白く参加できるような、普通に参加される一般の方もそうだが、子ども達、特に中学・高校生がこのまちのことを「桐生でよかったな」と思ってもらえるように、私も中学・高校時代の桐生が好きだったし、その時のまちは県内でも垢抜けていたまちだったと思う。そういったものは現在無くなってきて、逆に外から来た人達がそういうのを作ってくれて、もしかしたら最後のチャンスなのではないかと思っている。是非そういう人達と協力しながらやっていきたいなと思っている。

子ども達に桐生って面白いな、自然もあるしこんなこともやって面白いな、桐生にいてよかったなと思ってもらえるように、それも、ただいてよかったなというだけじゃなくて、どうしたら桐生のまちをもっと良くできるのだろう、どうしたらもっと面白くなるのだろうということを彼らに考えてもらう。彼らに考えてもらってその考えたことを大学等で色々なことを勉強し、それをこのまちにまた生かせるようになりたいなと刷り込んでおけばいい。先日ミニきりゅうをやっていたが、子ども達に色々考えさせて、桐生のまちを良くするにはどうしたらいいか、意見を子ども達に出してもらおうというというのがいいのかなと思う。意見を出してもらおうということは巻き込んでいることになる。子ども達に限らず色々な世代の人達にどんどん、こういう会議があるよと発信し、色々な市民から意見を出してもらおう。その中で面白いよねということをやっていくのがいいのかなと思う。

人口を増加させる中で、桐生の場合、問題なのは、就職ということなのだと思う。子育て環境はすごく良くて、保育園の数とか見ても、桐生市は子どもを育てやすい環境だと思う。保育園は独自に色々な取組をしているところもあるし、面白いなと思えるところも多いが、やはりそこで働く場がないから皆さん出て行ってしまう。なかなか今ある企業だけでは難しいし、企業誘致をずっとやっているわけだが、なかなか上手く誘致できない。伊勢崎や太田みたいに広い土地があるわけではないので、場所が狭くても山間部でもできるような自然環境を生かしたような企業を選んでアプローチすることも大切だと思う。

むしろ群馬大学もあるので、起業を本格的に後押ししていくことが大切であり、インキュベーションオフィスをやっているが、もっと力を入れていったいいのかなと思う。あまりお金もかからずにできるような場所、拠点づくりが大事だと思っており、例えば、新桐生駅の平和ビル、あの大きな空き家は何とかなければならぬが、ああいうところにワーキングスペースをどんどん無料のような形で使えるようにすると、駅の近くだし、高速道路からも桐生で一番近いし、ああいうところを起業の核として作っていくことが一番いいと思う。まち全体として新しいものを作っていくということも大切だが、桐生のまちの良さは古いものがあって、それをいかにリノベーションしてやっていくかということであり、リノベーションの例を作ってアピールしていけば、他の都市にはないことができる。その際のハードル、金銭的なこと、あるいは、こういうものには必ず申請が出てくるので、そこはまさに役所の役割で、申請のハードルを低くしてあげる、あるいは後押しするような制度ができるといい。

何より、先ほど皆が楽しむと申し上げたが、市の職員がどんどん桐生を楽しみ、桐生が大好きだということをアピールしないと駄目である。堅苦しくなく、皆が桐

	生はどうしたら良くなるかということを熱く語れる場を作って語っていただきたい。そのような勢いでやらないと、「駄目だね。減っちゃったね。」というのではなくて、多くの人が巻き込まれて、少しでも実行していくという力が集まって盛り上がってくるのかと思う。
委員	一般公募で参加し、本日意気込んできたが、市の資料や市長の挨拶を聞いて、私が考えて持ってきたことと方向が違うと思った。私が言おうとしたことは、人口減少対策をテーマとしてやるワーキンググループだと思って来て、皆さんからあった意見や発言はもちろん参考になるし為にもなるが、私は短期的に、じゃあこの先すぐどうするのかという話を中心なのかと思って来た。 私も市外に出たことがないので、皆さんと同じような体験や経験をしていないから分からないが、とにかく今出た話の中で、仕事がないというところで、仕事があれば帰ってくる人がいるのかなと思う。私は 40 年不動産業をやっているの、どの地区の人口が増えていて減っているのかということも分かっている。 その中で旧市街地が過疎ということだが、旧市街地は生活の核となる場所がない。私は相生町に住んでいるが、ヤオコーができてすごく人が来るようになっている。旧市街地の中に生活しやすいような場所を作る必要がある。今まで区画整理事業ができていないので、そういうことができなくて、その中で、この中にもたくさんいると思うが、桐生駅や本町通りや末広通りで新しく起業をしたり、お店を出したりする人が増えている。現在、旧市街地は高齢者がかなり多くて、新しい人が家を建てて住むということが少なくなっていると思う。私の仕事の的に考えると、区画整理ができないにしても、住環境の整備を行うことが必要であるが、市がやるのは不可能に近いと思う。できていたら今までこうなっていないと思うので、民間の力を借りて官民共創でやっていかなければならないと考えている。 このような即効性のある考えを出させていただくのと同時に、中長期的に、桐生愛を出して、桐生に住みたい、桐生は良いまちだと思ってもらえるような機運を造っていくのと両方でやった方がいいのかなと思う。 先ほど委員から、公共施設をどう閉じるかという話があったが、これはすごく大事だと思っていて、桐生の財政を考えるとこれ以上のことはできないという話があったと思うが、私が見ていて、桐生市は、お金を生む事業を全くしていない。例えば公共用地を民間に貸し出せば賃料が何千万と入ってくるのにしていない。そういう見直しというのを他の委員会でやっていると思うが、スピードがものすごく遅い。 短期的と言っているのは、1 年間で 1,200 人減っているのだから、この委員会が来年度いっぱいまでだとすると、もうそれで 2,000 人弱減ってしまう。そういうことを考えると、ここで議論していくことは大切だが、その間にも人口は減っていくので、そこをどうしていくべきかを併せて話し合わなければならない。いずれにしても、どの事業もお金はかかるので、お金を生めるようなものを考えていかなければならない。 また、若年層、特に女性の市外流出とあるが、これに歯止めをかけるというのは非常に難しい問題であると思う。失礼ながらジェンダーという話もある中で、これは冗談だが、女性が市外へ出て帰ってくる時に、桐生市にイケメンがたくさんいれ

	ば帰ってくる可能性もあるかもしれないが、働く場所は絶対必要だと思う。委員も言っていたが、企業誘致といっても土地がない。新里は武井西工業団地があるが、狭い土地の中で誘致できる産業もあるわけである。 何年か前から市に提案しているが、桐生で子どもを産むということは大切なことであると思うが、子どもを持っている人を呼ぶということも大切であると思う。例えば、シングルマザーをすごく大切にするまちということで、シングルマザーを呼ぶと人口が最低でも2人増えるわけだが、そこで桐生の独身の男性と結婚して子どもを産んでもらうという手段も無きにしも非ずなのかなと思う。それは即効性がありあると考えている。 短期的なものの中・長期的なものを平行して話を進めていく必要があると思う。
委員長	初回ということで、1人ずつ意見を言っていたが、言い漏らしたことや補足したいことなどあれば発言をお願いしたい。
事務局 (企画課長)	資料について、大分細かい資料を今回お出ししてしまったが、意図としては、これから皆様に人口減少対策をお考えいただく中で、今の桐生市の現状や、これまでやってきた取組を一度押さえた上でご議論いただきたいということで、厚かったが送付させていただいた。 今後については、もう前提ができており、また、皆様から頂いた意見をブラッシュアップしていくという作業になるので、このように資料が膨大になるようなことはないように気を付けてまいりたい。 先ほど委員長がおっしゃったように、我々も皆様方からざっくばらんなご意見をいただきたいと思うので、よろしく願いしたい。
委員	そもそもだが、このワーキンググループで話し合った意見はある一定の結論に達すると思うが、皆無給で時間もコストも割いて来ていて、それに対してのやって良かったなという実感が我々には確実に必要だと思う。それに対しての声明ではないが、良い意見が出たけど結局意見通らなかったよね、無意味だったよねとなりたくない。我々はチームだと思うので、市側もその辺の共有というか、意見を通すという熱度を持っていただくことがまず大事なと思う。
事務局 (企画課長)	そのことについては、冒頭の市長からお話があったように、一点突破の施策というものが出たならば、当然、市の方も生かしてまいりたいと思っている。しつこいようであるが、ここで叩いてまとまった案は、本ワーキンググループの上部組織である桐生市総合戦略推進委員会でもう一度たたいていただくことにはなる。そのため、本ワーキンググループに推進委員会から5名参加していただいている。いずれにしても、議論されたことが、議論だけで終わらないように、当然我々も実施に向けて努力してまいりたいと思っている。
委員長	桐生市総合戦略推進委員会からも、板橋委員長からも、生の声を反映させたいという強い思いがある。ここで出た意見を推進委員会に上げて、それをもむというような作業になるかと思うが、推進委員会ではなかなかそこまでたどり着けなかつ

	たような、本当に聴きたかった意見が上がっていくので、そういう部分では、何もなかったということにはならないし、そうしたいと思っている。そのようなつもりで私もここに来ているので、しっかり皆さんの意見を上にあげてまいりたい。
委員	私も推進委員会に出ているが、こんなに良い意見は出ていないと思う。本当に一番聴きたいのは、その年代の人達の声である。今回は1つのワーキングであるが、違う形のワーキングも本来作れば、本当に成果の出るものになると、今日の会議だけでもそう思った。 今日聴いていて、皆素晴らしい意見で、もっともっと色々な人の声を聴きたいし、基本的な資料で確認するような会議だけではなくて、現場の声というか、そういう人達の声を生かせる、そういう機会を設けてもらえたら有り難いととても感じた。
委員	このワーキンググループの最終的なアウトプットは、どのくらいの大きさというかレベルを求めているのか。
事務局 (企画課長)	どのくらいのというのも、正直想定しづらい。ただ、市長が冒頭お話ししたように、具体的、一点突破的な、先ほど委員がおっしゃったような、中長期的な考えもそうだし、目の前の人口減少に対する施策というのも具体的にあってもいいと思っている。具体性で言えば、短期的な方が具体的なものが出やすいと思っている。 いずれにしても、短期と中長期で分けるにしても、何点かに絞るにしても、この会議でどういう形になるかは分からないが、まとまった形を十分尊重してつないでいきたいと思っている。ただ、あまりにも多岐にわたると、市長もお話ししていたが、あれもこれもというほど余裕もない場合もあるので、ある程度絞って議論していただくと、今後実施に向けて我々も努力しやすいので、そこは念頭に入れていただけると有り難い。
事務局 (共創企画部長)	通常の行政の会議は、行政で具体的な案を示してそれに対して意見をいただくような形が多いと思うが、このワーキンググループに関しては、そういう形にしたいと思っている。まずは皆さんにご議論いただいて、皆様から出た意見を、その中で最終的な提言なりとして作っていただけると有り難い。 そのような中で、そういう形にするためには、色々な部分で皆様に共通認識を持っていた上で議論いただくことが必要だということで、今回は資料を多く送付させていただいた。そのような経緯を踏まえ、皆様に自由に活発なご意見をいただけたら有り難いと思っている。
委員	ワーキンググループの中で、どれくらいに整理するかも含めて議論するということではよろしいか。
事務局 (企画課長)	この後説明する予定であったが、次回の会議は年内に開催したいと考えている。どのくらいを目途にというと、これからご議論いただく中で、何かをするにしてもお金はある程度かかると思うが、現在ちょうど来年度の予算編成の時期で、来年度予算には間に合わないのので、再来年度予算には何とか反映させたいと考えている。

	そうすると、推進委員会に諮る日程を考えると、来年度に入って早々か、遅くても初夏の頃には、ある程度まとまって形ができていると、再来年度の予算に反映して次の年にやることの中に入れていけると考えている。冒頭市長からお話があったように、ここでご議論いただいたことを形にしたいと思っているので、形にするにはお金は当然かかり、パッケージでかかるだろうという想定もあるので、そのような時間軸というか感覚で考えている。
委員	総合戦略推進委員会のワーキンググループはここだけか。
事務局 (企画課長)	そのとおりである。
委員長	今日皆様からいただいたご意見は、事務局で整理をして、次回また示して、それに基づいて皆で議論するという運びでよろしいか。
事務局 (企画課長)	今日多様なご意見をいただき、1人1人の内容を整理する中で、キーワードがいくつか出ていていると思うので、委員長と相談しながら整理をして、皆様に提示していきたい。 今日皆様のお話を聴いていると、就職というキーワードが何人も出ていた。また、桐生の人口の状況からいうと、女性の減少という話はしたが、現状はそこが目立っているということで、そこだけをご議論いただくとは当然思っていない。広く色々なご意見をいただく中で、何かいい案が出ればと考えている。 次回は、1人1人のご意見の整理と、いくつかのキーワードで資料を作ってみて、その後またご相談してまいりたい。

8 その他

- ・事務局から、次回の開催日程について事務連絡。
- ・委員からの意見及び質疑応答は以下のとおり。

委員長	行政の会議なので、若干堅苦しいところは否めないが、次回以降会場設営の仕方も考え直しつつ、今回は一人ずつ順番に意見を言ってもらったが、今度から議論していただくというスタイルになるので、また今日とは違った会議というかミーティングになるかなと思う。先ほどの委員の「チーム」という言葉がすごく良いなと思って、色々意見を練って上に上げていけたらいいなと思う。 また、私は初回だったので小綺麗な格好をしているが、次回以降はラフな格好で来ようと思うので、皆さんも是非疲れない格好でお越しいただいて、気楽に意見をどんどん出していただくのが一番かなと思うので、よろしくお願いしたい。
委員	開催場所は、市役所の方が良いとかあるのか。
事務局 (企画課長)	特にない。

委員	私の店でやれば楽な気もするので、そういう日があってもいいかなと思う。
委員	お願いであるが、12 月は年末なので、申し訳ないが、せめて早めに日程を決めてもらいたい。
委員	メールアドレスを聞くな、紙で郵送じゃなくてデータで送ってもいいと思う。

9 閉 会 [終了：午後 3 時 3 0 分]